

(様式2)

令和4年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
402	川崎市立幸高等学校	安藤 勉

学校教育目標	学校経営の目標	今年度の重点目標
1 広く豊かな心と教養を持ち、自主的精神と態度を身につけた誠実清楚な人間を育成する。 2 礼儀と秩序を尊重し、責任感と協調性を持ち、社会の変化に対応できる力を育成する。 3 確かな学力を身につけ、専門的かつ国際的な視野を持ち、自己の可能性を追求する力を育成する。	◎豊かな心の育成 ◎確かな学力の向上 ◎魅力ある学校づくり ◎安心・安全な学校づくり	・人間性の涵養 ・学習評価の充実、GIGAスクール構想の推進 ・探究活動等を通じた家庭と地域との連携、協働 ・家庭との連携の強化

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1	豊かな心の育成 ・いじめ根絶に向けた継続的な指導の実施 ・SNS等のトラブル未然防止に向けたコミュニケーション能力の向上 ・特別な配慮を必要とする生徒への対応	・いじめの早期発見を行うために、職員が日常的に声かけと観察を行い生徒の気になる行動や言動等があれば迅速に指導し、情報を共有して早期対応することができた。今後も継続していく必要がある。 ・SNS等のトラブルを防ぐ講演会を1年生対象に行った。また、新学習指導要領の実施に伴い、協働的な学習を各教科で取り入れ、生徒自身が他者を尊重した言語活動ができるように場の工夫に努めた。 ・年間通して隔週に1回支援委員会を開催し、特別に支援が必要な生徒に対する支援の状況と今後の対応について協議し、成果をあげた。また、外部機関とも連携を図りながら保護者と連携して情報を共有し、スムーズに支援が行えるように努めた。	・いじめの早期発見に向けた教員研修を引き続き実施するとともに、情報共有する校内連携を再確認する。 ・情報安全教育を実施するとともに、日常的な教育相談を継続し、トラブルを早期に発見し、解消に向けた対応をする。 ・支援委員会の継続的な情報の共有と外部人材を活用しながら特別な配慮を必要とする生徒の支援をきめ細かに行う。
2	確かな学力の向上 ・家庭学習の定着に向けた自発的な学習の推進 ・学習評価を通じた学習指導の改善 ・校内OJTによる授業力向上の研修・実践 ・タブレット活用した授業実践の共有	・学校評価アンケートでは「わかりやすい授業」や「基礎基本が身に付いた」の項目では肯定的な意見が多数を占めたが、「家庭学習で取組」について昨年度と変わらず45%の生徒が否定的であり、課題解決の工夫が必要である。 ・1年生で実施した新しい観点別評価に基づく授業では多くの教員が授業改善を行っていた。まだ浸透していない場面も見られたので、主体的な学びを引き出す授業展開を今後も研究しながら進めていく必要がある。 ・今年度の校内OJTは「PC端末の効果的な活用」と「生徒の主体的な学習・活動を引き出す授業」をテーマに11月中旬より2週間にわたり実施した。実施後、教科毎で振り返りを行いまとめを行った。教員自身のPCスキルレベルやファシリテートに対する力量不足が課題となった。 ・「タブレット活用の授業実践の共有」ではGIGA端末の校内研修で各教科から実践報告を行い全体で共有した。今後も継続的に行う必要がある。	・主体的な家庭学習の定着に向けて各教科と学習部が中心となり検証と効果的な対応策に基づき、実践していく。 ・「学びに向かう力を育成するための授業」「家庭学習の定着」をねらいとしたGIGA端末の活用の研究を重ね実践していく。 ・表現力・発信力を育成していく為の授業改善を学校全体として取り組んでいく。 ・GIGA端末を活用した授業の取組を全体で共有し、各教科内で研究、推進していく。

3	<p>魅力ある学校づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商業教育の活性化に向けた研究の推進</li> <li>・インターンシップの実践</li> <li>・普通科における生徒の進路実現に向けた取組の推進</li> <li>・幸探究(グローバル探究)の発展的継続と課題研究の充実化、豊富化に向けた取組</li> <li>・全教員による「リサーチ基礎」への取組と共通理解</li> </ul>	<p>・「課題研究」では今年度は情報収集力・分析力の育成と情報発信力・プレゼン力の向上をねらいとして進めた。地元企業2社と大学・専門学校と連携してより多くの探究、発表の機会を設けた。また、授業における教員のファシリテート力向上のためにICT機器を活用して情報共有を行った。生徒、教員共にICT活用の為に知識・技術の向上が課題となった。</p> <p>・インターンシップは、ビジネス教養科の1年生全員と保育分野を希望する2,3年生を対象にして夏季休業中に実施した。市教委に協力していただき、市内事業所57団体、63回に及ぶ実習を計画した。感染症関連で約1割は実施に至らなかったがおおむねトラブルもなく実施できた。参加生徒からは、「大変有意義な経験となった」という声が寄せられた。生徒の希望先と受入れ先の調整や部活動等他の活動との調整が次年度への課題となった。</p> <p>・普通科における生徒の進路実現に向けて進路指導部と学年が連携して3つの事業を展開した。その中でも新規事業として1月に開催した1,2年保護者対象の総合型選抜入試説明会では約200名の保護者が参加し、生徒の進路実現に向けて本校の核となる総合型選抜受験におけるポイントを熱心に聞いていた。好評だったため次年度は生徒も一緒に参加できるよう工夫していきたい。</p> <p>・普通科「幸探究」の地域探究では、昨年同様に幸区の行政課題をテーマに探究を展開した。活動時間が少ない中であったが魅力的な提案をすることができた。幸区役所敷地内にある花壇の整備は企画した生徒もボランティアで参加した。さらに、生徒の探究活動に適切なタイミングで行う助言の仕方について、外部講師による教員研修を行いスキルアップを図った。</p> <p>・次年度より始まる「リサーチ基礎」について、全教員が共通理解を得ることを目的として、8月に幸区役所統計担当者の講演とリサーチ基礎の研修を行った。また、実施するための組織づくりに努めた。</p>	<p>・普通科、ビジネス教養科共に「リアル」をより意識した探究活動や課題研究を通じて、生徒が主体的に考え課題を解決する能力のさらなる向上を目指す。</p> <p>・今年度のインターンシップ事業を踏まえて発展的継続ができるように、事前、実施中、事後指導の具体的な計画を作成する。</p> <p>・進路希望の傾向変化と入試や入社試験の方法や内容を踏まえて、進路指導計画の発展的見直しを行う。</p> <p>・今年度の研修を踏まえ「リサーチ基礎」の実施と検証を行う。</p>
4	<p>安心・安全な学校づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通安全と自転車マナーの指導の徹底</li> <li>・未然防止に向けた安全管理・確保の体制の充実</li> <li>・定期的な学校施設・設備の安全点検の実施</li> <li>・情報配信の迅速化</li> </ul>	<p>・日頃の交通安全指導、PTA交通安全委員と一緒に年2回行う朝の安全指導や幸警察・区役所・風紀委員が合同で行う交通安全運動等を実施した。しかし、地域住民から自転車乗車マナーに関する苦情は削減できていない。生徒のマインドセットできるような方策が必要である。</p> <p>・感染症について校内感染を防ぐ取組(手指消毒の徹底や換気など)を行って一定の効果があつたが、施設の問題(窓の開閉故障等)と生徒の意識(感染を防ぐ行動)に課題が残った。</p> <p>・2年間にわたるトイレ工事が終了し、衛生面の環境は整ってきた。また、校内の照明器具がすべてLED照明に変更されて照度が環境規定内に確保された。しかし、校内で発生する雨漏りは深刻で早急な改善が必要である。</p> <p>・保護者向けのミマモルメを使用した情報発信はおおよそ遅延なく提供できた。今後はPTAから要望が出ている保護者向け配布プリントのメール発信を行える校内体制を構築していく。</p>	<p>・交通安全指導の継続と不断の注意喚起を行うとともに、生徒が主体的に交通マナーについて考える場の設定を行う。</p> <p>・感染症対策の継続と施設環境整備に努める。</p> <p>・定期的な学校施設・設備の安全点検の実施を継続する。また、環境整備推進室と連携して令和6年度予定されている校舎の外壁・防水工事実施に向けた準備に努める。</p> <p>・保護者向けにメール配信を利用した迅速で確実な情報提供に努める。</p>

学校関係者の評価	今年度の学校運営のまとめ・次年度へ向けて
<p>○6月と2月の2回行われた学校教育推進会議では次のような評価や意見を頂いた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車マナーについてはまだ改善されていないので、保護者や地域としても考えていきたい。</li> <li>・コロナ禍で生徒の活動を見る機会が少なかったが、今後は感染防止しながら増やしてほしい。</li> <li>・コロナだから新しくできたこともあり、見方を変えて積極的に取り組んでほしい。</li> <li>・部活動の加入者が増えて生徒が活発に活動していることはとてもうれしい。町内会のお祭りで吹奏楽部に演奏してもらい、とても盛り上がった。今後も地域と協働して活動してほしい。</li> <li>・授業参観を復活させてほしい。</li> </ul>	<p>○今年度は「生徒の豊かな表現力・発信力の育成」をテーマに掲げて教育活動を推進した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新学習指導要領実施1年目として各教科で表現力・発信力を育成できる授業や生徒が主体的に学べる場の工夫などの研究を行い、ある程度の改善が見られた。</li> <li>・普通科の「幸探究」における発展的な継続やビジネス教養科の「課題研究」における外部人材を活用した探究・発表などで表現力や発信力の向上につなげることができた。</li> <li>・「リサーチ基礎」は探究活動における重要な位置づけになるため、教員の共通理解を図る研修を行い次年度実施に向けて準備を整えた。</li> <li>・インターンシップ事業では「リアル」を体験するためにビジネス教養科1年生全員の参加が実現した。新型コロナウイルスが感染拡大中の実施ではあったが、参加企業のご理解も得られて、おおむね無事に終了することができた。関係各位に感謝申しあげるとともに次年度も引き続きお願いしたい。</li> </ul> <p>○豊かな心の育成について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様化や複雑化する生徒指導課題を生徒の気持ちに寄り添って柔軟に対処できるように、3月に教員研修を行った。生徒指導提要の改定内容を踏まえて、教員全体で共通理解のもとで生徒指導に努める必要がある。</li> <li>・特別な配慮を必要とする生徒が増えてきているので、日頃より観察や声かけを頻繁に行い状況の把握と情報の共有を次年度以降も継続的に行う。さらに、外部人材を活用しながらきめ細かな支援につなげていく必要がある。</li> </ul>